

令和4年度(2022)アサンプション国際小学校 学校評価報告書

1. めざす学校像

教育目標:「心身ともに、すこやかに愛に生きる子

～進んで学ぶ子、強く生きる子、神と人を愛する子～

1. 進んで学ぶ子

- (1) 基礎的・基本的な学力を身につける
- (2) 自分で考え判断する
- (3) 自分の考えを表現し、分かち合う

2. 強く生きる子

- (1) 基本的生活習慣を身につける
- (2) 強い心と体をつくる
- (3) 責任を持ち、自主的に行動する

3. 神と人を愛する子

- (1) 自分の良さや人の良さを認める
- (2) 思いやりを持ち、友だちを大切にする
- (3) 感謝の気持ちをもって喜んで働く
- (4) 自然を大切にする

2. 2022事業計画

【理念】

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す

～2022年度に全学年が新体制になるため、「アサンプション21世紀型教育」の充実と定着を進める

1. 重点課題

- (1) 授業力向上…教職員の意識改革、組織力強化と授業力の向上の育成
- (2) 英語力強化…イマージョン教育の定着と組織化
- (3) 学院的課題…募集80名を目標とした広報戦略の強化
- (4) 幼・中高教職員間…内部進学制度の充実と教員の相互補完
- (5) 宗教教育再生・強化…カトリック校に相応しい全校的体制刷新

2. 具体的な取り組み

- (1) 授業力の向上
 - ① 研究研修体制を充実させる。研究授業の録画視聴や ZOOM を使用した研修など、コロナ禍における新しい形の研修を実施する。
 - ② PBL の理解を深め、共通した研究テーマで各教員が実践した取り組みを共有する。
 - ③ 個人用 iPad を活用し、ICT 活用した授業を日常的に進める。
- (2) 英語力(イマージョン)強化
 - ① 英語モジュールタイムにより、英語に触れる時間を増やすとともに、授業で取り組んだ内容を定着させる。
 - ② PBL の授業を主体とするイマージョン授業を実施し、教員同士の実践報告を通して授業スキルを高める。
 - ③ 中高のイマージョン部会と連携し、12 年一貫プログラムを構築する。
- (3) 学院的課題 募集について
 - ① 入学者確保に向けて、幼児教室や幼稚園での説明会の実施や住所保有者に対しての定期的な情報発信を行う。
 - ② 内部生の満足度を向上させるために、教員の研修体制、ブログなどによる情報発信、児童交流や保護者説明会等を実施する。
- (4) 幼・中高教職員との連携強化
 - ① 幼稚園の園長推薦制のさらなる確立と内部保護者対象の説明会を実施し、内部進学希望者の増加に努める。
 - ② 小学校の校長推薦制度の改革と中学校授業への体験を実施し、内部進学希望者の増加に努める。
- (5) 宗教教育再生・強化
 - ① 宗教教育を充実させる。
 - ② 教員に対する宗教研修を実施する。

3.【自己評価アンケートの結果と分析】(2023年1月実施)

保護者アンケート

<集計結果>

- ①学院の5つのCore Values「Life, Truth, Freedom, Goodness, Oneness」を意識し、「豊かな心の教育」が実践できていましたか。
肯定57% 否定12% どちらでもない31%
- ②学院のモットー「誠実・隣人愛・喜び」を礎に、宗教教育を中心とした児童の心を育てる教育が実践できていましたか。
肯定62% 否定14% どちらでもない24%
- ③ユネスコスクールとしての活動が、学校内全体に浸透させることができていましたか。
肯定41% 否定15% どちらでもない44%
- ④児童が主体的に取り組む奉仕活動において、フィードバックを行い、経験を深い学びにつなげるような取り組みができていますか。
肯定54% 否定11% どちらでもない35%
- ⑤児童の基礎学力定着を意識して、日々の教育活動を進めることができていましたか。
肯定58% 否定17% どちらでもない26%
- ⑥児童が個人のiPadを用意することで、教育的効果を上げるような授業ができていましたか。
肯定51% 否定19% どちらでもない30%
- ⑦情報科以外の授業で、プログラミング的思考を身に付ける授業が実施されていましたか。
肯定34% 否定23% どちらでもない43%
- ⑧日々の授業の中で、児童が主体的に活動できる時間を十分確保できていましたか。
肯定58% 否定10% どちらでもない32%
- ⑨本校の英語教育は、4技能(話す・聞く・読む・書く)をバランスよく向上させる内容となっていましたか。
肯定51% 否定18% どちらでもない31%
- ⑩本校の英語教育において、中高と連携して12年一貫教育のつながりが感じられましたか。
肯定29% 否定32% どちらでもない38%
- ⑪モジュールタイムの導入により、英語に触れる機会が増え、定着につなげることができていますか。
肯定41% 否定18% どちらでもない41%
- ⑫子どもたちの声に耳を傾けながら学級経営や教育活動が行われていると思われませんか。
肯定54% 否定17% どちらでもない30%
- ⑬挨拶や言葉遣いなど、様々な人とのつながりを意識した指導を、積極的に行うことができていましたか。
肯定53% 否定21% どちらでもない26%
- ⑭学校行事や奉仕活動において、実施のねらいや目的を、学年に応じて児童に伝えることができていましたか。
肯定61% 否定9% どちらでもない30%
- ⑮コロナ禍において、制限された活動の中でも、児童・保護者が感動できるような行事が実施できていましたか。
肯定70% 否定10% どちらでもない20%
- ⑯小学校だよりを通して、学校の情報を発信できていると思われませんか。
肯定69% 否定6% どちらでもない25%
- ⑰学年通信・学級通信を通して、学年や学級の情報を発信できていると思われませんか。
肯定68% 否定11% どちらでもない21%
- ⑱アフタースクールやメアリーズクラスは、安心して預けられる環境になっていると思われませんか。
肯定61% 否定7% どちらでもない32%
- ⑲保護者が併設中学校・高等学校に興味を持てるような情報の発信を行うことができていましたか。
肯定28% 否定34% どちらでもない38%
- ⑳学習ポータルサイトやブログを、効果的に活用できていましたか。
肯定45% 否定22% どちらでもない33%
- ㉑HPに掲載されているブログを、どれぐらいの頻度でご覧になりましたか。
ほぼ毎日3% 週に1~2回程度12% 月に1~2回程度42% ほとんど見なかった42% その他1%

(アカデミックコースへの質問)

A-1 本校のアカデミックコースは、イングリッシュコースとは違う魅力として感じられたものをお選びください。(複数選択可)

(主な回答) 落ち着いた雰囲気 43% 集団としてのまとまり 39% 正しい日本語の定着 37% 主体的な活動 27%

(イングリッシュコースへの質問)

E-1 本校のイマージョン教育は、児童の英語運用能力を向上させるのに十分効果があると感じられますか。

肯定 55% 否定 16% どちらでもない 29%

E-2 イマージョン教育を実施する上で、教員の TT による授業は効果的に実施できていましたか。 *TT=ティームティーチング(複数の教員がチームで指導をすること)

肯定 51% 否定 16% どちらでもない 33%

<個別の意見>

- ・他学年の先生も気をかけてくださるなど、学校全体で見守ってくださり感謝します。
- ・併設中学とのつながる機会を増やしてほしい。
- ・ブログへの掲載を増やしてほしい。
- ・子どもの言葉遣いが気になる。

教員アンケート

<集計結果>

①学院の5つのCore Values「Life, Truth, Freedom, Goodness, Oneness」を意識し、「世界に貢献できる人材」を育成する教育が実践できていましたか。

肯定 50% 否定 10% どちらでもない 40%

②学院のモットー「誠実・隣人愛・喜び」を礎に、宗教教育を中心とした児童の心を育てる教育が実践できていましたか。

肯定 65% 否定 5% どちらでもない 30%

③ユネスコスクールとしての活動が、学校内全体に浸透させることができていましたか。

肯定 15% 否定 40% どちらでもない 45%

④児童が主体的に取り組む 奉仕活動において、フィードバックを行い、経験を深い学びにつなげるような取り組みができていましたか。

肯定 35% 否定 15% どちらでもない 50%

⑤児童の基礎的な学力の定着を意識して、日々の教育活動を進めることができていましたか。

肯定 71% 否定 5% どちらでもない 24%

⑥本校のアカデミックコースは、イングリッシュコースと差別化できるような魅力を打ち出すことができていますか。

肯定 20% 否定 40% どちらでもない 40%

⑦児童が個人のiPadを用意することで、教育的効果を上げるような授業ができましたか。

肯定 65% 否定 5% どちらでもない 30%

⑧情報科以外の授業で、プログラミング的思考を意識した授業が実施できていましたか。

肯定 30% 否定 25% どちらでもない 45%

⑨PBLを実施する上で、児童の思考の可視化を意識して指導ができていましたか。

肯定 45% 否定 5% どちらでもない 50%

⑩日々の授業の中で、児童が主体的に活動できる時間を全体の20%以上確保できていましたか。

肯定 76% 否定 0% どちらでもない 24%

⑪本校の英語教育は、4技能をバランスよく向上させる内容で進められていましたか。

肯定 40% 否定 5% どちらでもない 55%

⑫モジュールタイムの導入により、英語に触れる機会が増え、定着につなげることができましたか。

肯定 25% 否定 32% どちらでもない 45%

⑬本校の英語教育において、中高と連携して12年一貫教育のつながりをもった指導ができていましたか。

肯定 25% 否定 35% どちらでもない 40%

⑭本校のイマージョン教育は、児童の英語運用能力を向上させるのに十分効果がある内容で進められていましたか。

肯定 55% 否定 15% どちらでもない 30%

⑮イマージョン教育を実施する上で、教員のTTによる授業は効果的に実施できていましたか。

肯定 52% 否定 15% どちらでもない 33%

<p>⑩挨拶や言葉遣いなど、様々な人とのつながりを意識した指導を、積極的に行うことができていましたか。 肯定 57% 否定 10% どちらでもない 33%</p> <p>⑪学校行事や奉仕活動において、実施のねらいや目的を、学年に応じて児童に伝えることができていましたか。 肯定 60% 否定 0% どちらでもない 40%</p> <p>⑫コロナ禍において、制限された活動の中でも、児童・保護者が感動できるような行事になるように指導できていましたか。 肯定 65% 否定 0% どちらでもない 35%</p> <p>⑬本校の児童が併設中学校へ内部進学したいと感じられるような取り組みを、十分行っていましたか。 肯定 10% 否定 35% どちらでもない 55%</p> <p>⑭保護者が併設中学校・高等学校に興味を持てるような発信を行うことができていましたか。 肯定 5% 否定 50% どちらでもない 45%</p> <p>⑮学習ポータルサイトやブログを使って、内部満足度を上げることへつなげられていましたか。 肯定 30% 否定 20% どちらでもない 50%</p> <p>⑯PBLの理解や教員の資質向上につながるような研修は、十分実施されていましたか。 肯定 35% 否定 10% どちらでもない 55%</p> <p>⑰日々の授業の向上に向けて、学年団や部会等、チームで具体的な検証が実施できていましたか。 肯定 48% 否定 14% どちらでもない 38%</p> <p>⑱【参加された方のみ】初任者研修は、充実した内容で実施されていましたか。 肯定 67% 否定 0% どちらでもない 33%</p> <p>⑲初任者が安心して活動できるように、学年が中心となってチームで取り組むことができましたか。 肯定 15% 否定 0% どちらでもない 85%</p> <p><個別の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・モジュールタイムの再検討が必要だと感じる。 ・ブログ用の写真を取る時間が取れない。 ・学院全体としての教育効果を高めるためにも併設校同士が交流する機会を多く持ちたい。
分析
<p>2022年度は、コロナ禍が少しずつ緩和され、感染予防対策を取りながら、運動会、学習発表会やチャリティ・デーといった学校行事を実施した。授業のスタイルもPBL型が戻りはじめ、グループワークやプレゼンテーションといった思考力や表現力を訓練する授業展開により、児童が主体的に取り組む機会が増えた。このことは学校評価の保護者アンケート⑩(コロナ禍において、制限された活動の中でも、児童・保護者が感動できるような行事が実施できたか)を見ても、肯定的な意見が70%であり、本校の取り組みについて一定数の評価をいただいていると伺える。引き続き、コロナが流行する以前の活気が取り戻せるように感染防止対策を取りながら学校行事や授業になどに取り組んでいきたい。</p> <p>また、保護者アンケートの⑭、⑮(小学校だよりや学年通信やクラス通信を通して情報が発信できているか)の質問では、肯定的な意見が昨年度よりも増加していた。学校からの情報発信についても一定の評価をいただいていると推察できるが、保護者からのコメントには、もっと学校ブログで学校での子どもたちの様子を教えてほしいという意見も複数ある。アンケートの回答全体を見ても“どちらでもない”と答えている保護者も多い。このことから、学校の教育方針が十分に保護者に伝わっていないことが伺えるので、情報発信をするだけではなく、学校全体として、子どもたちが毎日感動する取り組みを考え、子どもたち自らが充実した毎日を送る仕掛け作りを今後も検討し、学校運営につなげてけるように努める。</p>

4. 本年度の取組内容及び自己評価

今年度の重点目標 (Plan)	具体的な取組計画・内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action)
(1) 授業力向上	① 研究研修体制を充実させる。研究授業の録画視聴やZOOMを使用した研修など、コロナ禍における新しい形の研修を実施する。	学期に一回、国・算の授業研究会を実施する。また、公開授業も随時行い、教員の授業力向上に向けた研修を進める。 (判定: ○、△、×)	【結果】○ 学期に1回の教科による研究授業を実施することができた。また、ICTを利用して、研究授業内での気づきをその場で共有する取り組みをすることで、リアルタイムで子どもの様子を共有することもできた。

	②PBLの理解を深め、共通した研究テーマで各教員が実践した取り組みを共有する。	PBLの共通理解を深める研修を実施する。 (判定:○、△、×)	【結果】△ 1学期に全教員対象のPBL研修を行うことができた。更に回数を増やすための具体案を検討する必要がある。
	③個人用iPadを活用し、ICT活用した授業を日常的に進める。	情報担当の教員を中心に、ICTを活用しやすい環境を整えたり、実践を共有できるような研修を計画したりする。 (判定:○、△、×)	【結果】○ どの学年も、iPadを活用した授業は行われるようになった。新任研修の場ではICTの便利な利用方法などを先輩教員による実践報告なども行った。
(2) 英語力強化	①英語モジュールタイムにより、英語に触れる時間を増やすとともに、授業で取り組んだ内容を定着させる。	週当たり45分間の英語モジュールタイムを確保し、児童の英語力向上に関する検証を行う。 (判定:○、△、×)	【結果】△ 英語モジュールタイムの時間は確保できたものの、その成果や内容については検討が必要。普段の授業の単語などの振り返りが不十分なので、強化していきたい。
	②PBLの授業を主体とするイマージョン授業を実施し、教員同士の実践報告を通して授業スキルを高める。	イマージョン授業の授業研を年間で複数回行い、授業の検証を進める。 (判定:○、△、×)	【結果】△ 今年度1回のみ、イマージョン授業の授業研を行えた。ネイティブ教員のPBLの手法について共有する機会を今後は増やしていきたい。
	③中高のイマージョン部会と連携し、12年一貫プログラムを構築する。	イングリッシュコースの達成目標を明確にし、12年一貫体制の展望を持った内容の検証を行う。 (判定:○、△、×)	【結果】△ 年度初めに小中高の英語科の教員で使用教科書などについての会議を行い情報共有を行えた。内容をさらに充実させるためにも更なる会議の機会を増やしたい。
(3) 広報戦略の強化	①募集80名を目標とした広報戦略を強化する。	入学者確保に向けて、幼児教室や幼稚園での説明会の実施や住所保有者に対しての定期的な情報発信を行う。 (判定:○、△、×)	【結果】△ 入試後の辞退者が多く、B日程、C日程を実施したが、入学者は目標に達しなかった。辞退者続出の原因の検証が必要。
	②教育活動における様々な場面の発信を行い、内部生の満足度を向上させる。	教員の研修体制、ブログなどによる情報発信、児童交流や保護者説明会等を通して、本校の教育内容の充実度を伝え、満足度向上につなげる。 (判定:○、△、×)	【結果】△ 各学年、行事の度にブログを上げたが、保護者にしっかりと学校の様子は伝わっていないようにアンケート結果からも伺える。普段の様子や授業の様子もアップできるように各学年に声かけをしていきたい。
(4) 内部進学制度の充実と教員の相互補完	①小学校への内部進学希望者を前年度以上に増加させる。	幼稚園の園長推薦制のさらなる確立や内部保護者対象の説明会を実施し、小学校に関心を向けることで内部進学希望者の増加につなげる。 (判定:○、△、×)	【結果】○ アカデミックコース14名、イングリッシュコース2名が内部進学をすることとなった。一定数の入学が見込めるように今後も幼小の連携を進めていきたい。
	②併設中学校への内部進学希望者を増加させる。	小学校の校長推薦制度の改革と中学校授業への体験を実施し、併設中学校に関心を向けることで内部進学希望者の増加につなげる。 (判定:○、△、×)	【結果】○ アカデミックコース11名、イングリッシュコース18名という人数が内部進学者することとなり、例年に比べて非常に多くの割合で内部進学者がでた。次年度にもつなげたい。
(5) 宗教教育再生・強化	①宗教教育を充実させる。	全校礼拝、各種宗教行事等において、神さまとの対話を通して心身共に健やかに成長させる。 (判定:○、△、×)	【結果】○ 全校礼拝や祈りの集いなどの宗教行事を全校児童が聖堂に集まり、共有の時間を作ることができた。
	②教員に対する宗教研修を実施する。	シスターや外部講師を招いての宗教研修を行い、カトリック校の教員としての理解を深める。 (判定:○、△、×)	【結果】△ 宗教行事を経験したことがない教員が増えたこともあり、宗教行事前にシスターから職員会議等で丁寧な説明をする機会が多く取れたが、宗教研修をするまでには至っていない。

5. 学校関係者評価

日頃の教育活動において、今年度も学校は子どもたちの発言に耳を傾け、日々熱心にご指導いただいていると感じます。挨拶や言葉遣いなどの基本的な生活習慣についても、アサンプション国際小学校の児童はしっかりできていると感じます。全体的に穏やかな児童が多く、落ち着いている印象があります。情報発信についても、熱心にして下さっている印象です。小学校だよりをはじめとするお便り、学校ブログなどを発信源として、様々な角度から情報発信をしてくださり、感謝申し上げます。そういった情報を基に、親子のコミュニケーションが生まれているご家庭も多いのではないのでしょうか。英語イマージョン教育については、その有用性を非常に感じます。英語の授業だけでは、英語能力の習熟は多くを期待できません。日常の多くの場面で英語を使うという環境は、子どもたちに英語を使うのが当然というマインドセットにも役立っていると感じます。一方で、日本語が拙くなってしまうのも困るので、今のイングリッシュコースのバランスが、日本人の英語習得においては非常に良いと感じています。最後に、ユネスコスクールとしての活動が保護者として具体的に見えておりませんので、そのあたりの取り組みの様子はもっと知りたいです。